

一般社団法人 高知県子ども会連合会



高子連だより

No. 58

平成26年3月31日発行



アソブンジャー・トレーニング・セミナー ステップ1～3

平成25年度 JL 中国・四国大会に参加して

平成25年 8月23日（金）～25日（日）

畑山咲野花

私は、今回、初めて中国・四国大会に参加しました。やはり、県の講習会とは違い、人も多くて色々なことが学べました。

1つは、自分の知らないレクです。他の県の人々のレクは面白かったです。また、新たなジュニアリーダー像を他の県の人から学んだと思います。この人のここが自分に足りないところだ、そんな風に、良いことを発見し自分の中のジュニアリーダー像に付け足すことができました。私は、私の中にあるジュニアリーダー像に近づくことが出来るようにこれからも頑張りたいと思いました。

来年は高知で大会を開催します。私は、今回松山ジュニアの行動を見て、来年高知であるときはここをこうしよう、など考えることができました。また、松山ジュニアから、良いところもを見つけることができました。来年の高知で大会をするときは、今回の松山（愛媛）大会から学んだことを生かして、より良い大会にしたいです。

最後に、今回の中国・四国大会は自分の反省点をたくさん見つけることができました。これからは反省点を改善し自分のジュニアリーダーとしての力を伸ばしたいと思いました。

笹岡 悠人

私はシニア1年生という立場でありながら、今回はジュニアとして参加した。本大会前に一度確認したのだが、ジュニアで登録しているとのことだったのでそれに応じた。確認当時は多少の違和感を感じながらも、さほど気にはしていなかった。

大会当日、シニアに来ないかと打診された。しかし、私は断った。と言うのも、シニアとしての活動となると、単純に若いジュニアのメンバーと交流する時間は激減する。そして、その役割はジュニアとは段違いに責任が重く、リーダーシップに全く自信がない私は怯え、また、中・四という私にとっての大舞台の中での「シニア」という言葉が放つ、堅苦しさ、息苦しさという鋼鉄の槍の拷問に心が逃げてしまったからだ。

しかし、プログラムが進行すればするほど、楽な道を選んだ自分に対する情けなさ、本来いるべき場所にいないことに対する罪悪感、孤独感に苛まれていった。さらに、シニアやジュニアにそのことを言及されないか、叱責、罵倒されないかと内心恐怖を感じていた。

とはいえ、松山大会が全く楽しくなかった訳ではない。ジュニアの独特の調子、活気、エネルギーを、余すところなく発散したレクゲームは本当に格別だった。学校でやると馬鹿馬鹿しいと嘲笑され

るであろうことであっても、これ見よがしに、胸を張って、堂々とできた。某有名競泳選手の言葉を借り、「ちょー気持ちいい」と言う他に、ふさわしい言葉があるだろうか。まさに自分のアイデンティティー、そして存在を証明する場所であると言えるほど、等身大の自分像というものははっきりと認識できた。

けれども、未だ私が解決すべき課題は山積みである。一番に手をつけるべきは、「過信ではなく、経験に裏付けされた確かな自信を身に付けること」であろうか。抽象的だが、私にとって何をするにしても、経験、そして自信というものは、笑い事ではなく本当にストーカーのようにつきまとって来る厄介者だ。

客観的に見ても、酷く田舎生まれで対人関係に乏しく、また根暗で投げ遣りで自己中心的な私は、人と接すると常に摩擦が生じてきた。そのせいか、他人に対する思いやりに欠け、言葉のイントネーション、抑揚、表情の豊かさ等、妥当な社会生活を送るにおいて大きな難がある。それがいばらの道であろうがなかろうが、立ち向かって進んでいく他ない。または、人間として社会性を失うかのどちらかだ。

然るに、私は人間活動の真の随は、欲求の充足にあると考えている。子ども会活動に当てはめて考えてみると、「みんなが気持ち良く活動すること」に行き着くのではないだろうか。そのために、大きな声を出す、あいさつをする、時間を守る、テキパキ動く、ゲームをする、盛り上げる等という要素が必要になってくるのだ。

私はこれから、シニアとして、みんなが気持ち良くなれるよう、尽力していきたいと思う。

笹原 寛仁

今回2回目の中・四大会に参加しました。主催者の松山ジュニアスタッフは大半が中学生で最近はじめたばかりという人もたくさんいました。その中でプログラムも驚くほどスムーズに進んでいて、それだけ打ち合わせもしてきたんだろうと思いました。

高3の参加でジュニアとしては最上級生でしたが、同級生や後輩からたくさんの事を学びました。それは全体的なプログラムより、むしろフリータイムやちょっとした空いた時間にジュニアらしさを感じました。簡単な手遊びをしたり、話し合いの進め方だったり、それぞれの地域の特徴がでていてとても勉強になりました。

私の班は高3から中1まで揃っていて、みんな心からジュニア好きっていうのが表にでていて打ち解けるのも早かったし、また最後まで最高のチームワークで楽しめました。なによりみんなが積極的に私も見習わなければならないと思いました。

キャンドルサービスの第2部では、自分の知ってるレクでも微妙に違ったりして、それも中・四の醍醐味とも言えますが、いくつか吸収したいレクもありました。

来年は高知大会ということで松山大会に負けたくないくらい盛り上げたいと思いました。



第44回 高知県子ども会ジュニア・リーダー講習会 アソブンジャー・トレーニング・セミナー ステップ1・2・3

平成25年6月15日（土）～16日（日） ステップ1

平成25年8月16日（金）～18日（日） ステップ2

平成25年11月17日（日） ステップ3

脅威兼モチベーター

笹岡 悠人

「中川智花」という大物新人がデビューした。彼女にコミュ障、人見知りという概念はなく、私とは真逆のパーフェクトリア充型の人間だ。会長を始め、教育委員会の瀬沼さん等の重鎮方にも嫌味のないタメ口が使える。彼女の事を瀬沼さんは「度胸がある。」そう言った。彼に言葉で表現された瞬間、まさしくそうだなと、衝撃を受けた。何が私と違うのだろうか。それは、DNA、そして現在までの生活環境であろう。しかしそれはどうしようもない事で、その差はある程度努力で縮まるが、彼女のような度胸を身につけるには、かなりの修業が必要のようだ。今回こそ、私はブルーの正規メンバー、彼女は仮メンバーという結果であったが、私と彼女には6歳という年の差がある。このままでは、すぐに埋まりそうな勢いが彼女にはある。私は正確に自分の現状を把握し、至らない部分を一つずつ改善していきたい。

ジュニアリーダーの感想

中川 智花

現在、私は中学1年生でこのジュニアリーダー研修に参加するのは2度目でまさかの、女性が自分だけという悲劇でしたが、久しぶりにカイジ（ゆうと）と尚樹に会えたので嬉しかったです。

1日目に、2日目にする、バッチテスト用にゲームを考えました。最初は全然何も思いつかなかったけど、「高知の子供」の本やアドバイスを受けて、何とか仕上がりました。

2日目、バッチテストをして、結果は、グリーンは、合格することが出来ました。

3日目、2度目のバッチテストをしました。

結果は、無念のブルー仮免許になりました。

しかし、何回もやって練習したので良かったと思いました。

今回の研修は、とても勉強になって良かったです。

ありがとうございました。



葛岡尚樹

ステップ2に来てよかったです。すごい勉強になりました。こういうふうゲームをやるんだと分かりました。

最初出る時には、楽しく出ることとがんばるぞと出ることが分かりました。

2日目で、バッチテストをやったらいっきに1回目は、きんちょうをしてイエローでしたけど、2回目でグリーンをとれてうれしかったです。

3日目では、バッチテストで1回目はちょっと無理でしたけど、2回目でブルーのかり免許をもらったので、うれしいです。次は、本当のブルーがほしいです。高校生になったらレッドを取りたいです。また、来年に行きます。

全国子ども会研究集会に参加して

平成25年7月27日（土）～31日（水）

塩見砂理菜

私は今回で3回目の参加になりました。全国の研究集会では3回全部同じ内容だったのですが、やはり何度行っても考えさせられ、そして成長できた内容だったと思います。

1日目はみんな緊張が解けていなかったのですが、2日目の夜に行ったドリームキッズアドベンチャーでみんなとの距離がぐっと近づいたと思いました。ここで行ったゲームは4～10人で出来るゲームでルールも簡単でおもしろく、何よりみんなと協力しないと勝てないゲームだったので自分の地区でも出来るなと思いました。

3日目からは本格的に『この瞳の瞬きを』という子ども会とは何で、どうあるべきかという話し合いをし、4日目に話し合った内容を各班ごとに劇などで発表しました。私たちの班は子ども会に加入していない子どもの親や加入している子どもの親に向けて、子ども会活動をすることによって子どもは何を得るのかについて考え、発表しました。

3日目の夜はシニアリーダーさんたちと班のみんなで自分の将来や自分の地区の子ども会の現状について話し合い、自分や自分の地区を見直すことができました。

4日目の夜は、キャンドルファイヤーをして今までやったことのないゲームや知っているゲームでも違うことなどいろんなことを学ぶことができました。

この5日間を通して、本当にいろいろなことを学ぶことができました。またおとしと同じ班だった2人がシニアリーダーとして活躍していたので、私もその2人のようにまた全国の研究集会に参加したいと思いました。本当にありがとうございました。

中国・四国地区子ども会育成研究協議会 徳島大会に参加して

平成25年11月9日（土）～10日（日）

南国市子ども会連合会
岡豊子ども会 吉田 育

今年度は「これからの子ども会活動のために！」を大会テーマとし、子ども会活動の基本と子どものための様々な活動を紹介し、地域での子ども会活動を継続するために、これからは何を考え、何を伝え、どのように行動する必要があるのかを協議し、これからの地域活動の活性化に役立ててほしいとの願いをもって大会が開催されました。

その下に第1分科会から第6分科会を設けて研究と協議が進められ、私を含め南子連5名は第5分科会に参加させていただきました。「木のおもちゃを使った遊び」阿波手づくりおもちゃ館館長井村雄三氏による事例発表、協議があり、簡単なおもちゃが沢山あるとどんなことが出来るのか…身近な材料を使っておもちゃを制作し、実際に作ったおもちゃで子ども達が楽しんでいる場面を用いてスライドショーでの説明がありました。そこには、子ども達の生き生きとした表情、創造性の豊かさがあり「驚き、感動」に尽きました。子ども達の力を引き出すための魅力的なおもちゃとはどのようにして生まれるのか、その理論と私達が見て、触れて、遊び、木のおもちゃの温かさ、心地よさを実感、体験し、創造性の大切さについて学ぶことのできた大変貴重な機会でした。

現在、子ども達を取り巻く生活環境は著しく変化しています。子ども達を守り、健全に育てるためには、家庭、学校、地域社会が互いに連携し、連帯性の強化を図り一丸となる必要があります。私達、大人に課せられた責務だと言えます。

徳島大会に参加し、いい経験をさせていただき感謝しています。今後の大会において、多くの方々の参加を期待いたします。



（一社）高知県子ども会連合会

事務局所在地

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号
丸ノ内ビル3F
高知県社会福祉協議会分室内
☎ 088-855-5481 FAX 088-855-5481

編集 広報部 久保・宗圓

発行責任者 会長 西内昭男